

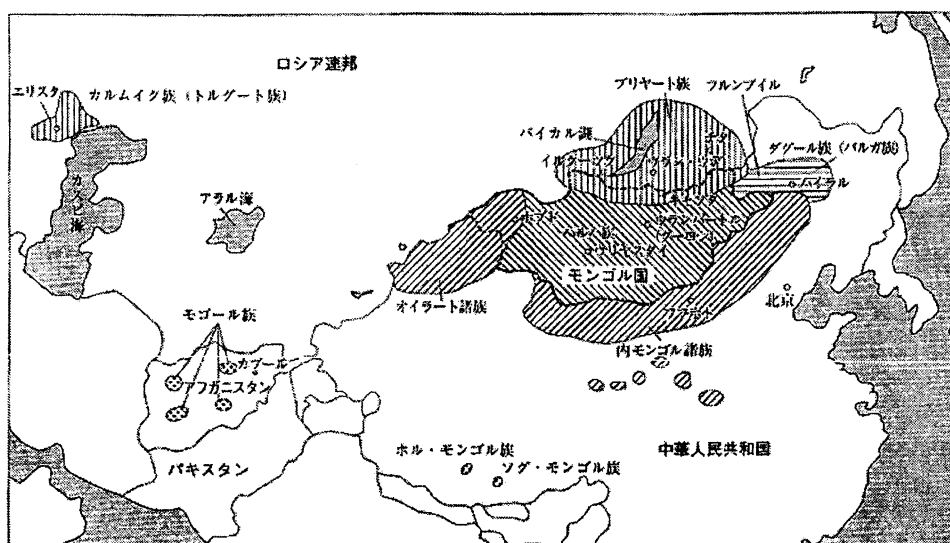
2015年10月1日
 於東京大学

モンゴルから見た「中国史」

下関市立大学経済学部
 橘 誠

関連年表

1911年10月10日	辛亥革命勃発
1911年12月1日	外モンゴルの独立宣言 (29日、ボグド・ハーン政権の成立)
1912年11月3日	露蒙協定締結
1913年11月5日	露中宣言成立
1915年6月7日	露蒙中キャフタ協定締結
1917年11月7日	ロシア革命
1919年11月22日	外モンゴル自治撤廃
1921年2月22日	外モンゴルの自治復活
1921年7月11日	モンゴル人民政府の成立
1921年11月5日	ソヴィエト・モンゴル友好協定
1924年5月31日	中ソ友好条約
1924年11月26日	モンゴル人民共和国の成立



モンゴル民族居住分布図 [モンゴル民族の近現代史] (東洋書店 2004)より

「中国史」とは？

- ・20世紀に至るまで「中国」の歴史を一つの国の歴史として見ることはなかった。
- ・それ以前は「漢」、「唐」、「明」などの王朝＝国名

「中国史」における「モンゴル」

- ・「中国史」内に時々現れる存在。
- ・現在「モンゴル」の一部は中国の一部であるから、これを「中国史」に包摂する必要性。
- ・その一方で「モンゴル」の一部は独立国。
- ・清末～民国初期（辛亥革命前後）が重要となる。

「中華圏」の変遷（清末～）

- ・19世紀後半、清朝は朝貢国（属国）を失っていく。
琉球（1879）、ヴェトナム（1885）、朝鮮（1895）
- ・その一方で、「藩部」（モンゴル・新疆・チベット・青海）の「内地化」を進める。
新疆省（1884）、東三省（1907）、移民実辺など

「藩部」とは

- ・省制が施行されないモンゴル、新疆、チベット、青海。
- ・理藩院が管轄。

モンゴル・チベットの反応

- ・なぜ「中国」の一部なのか？
- ・モンゴル、チベットは清朝からの離反を模索。
- ・辛亥革命（1911）を機に独立を宣言。

「モンゴル」内の様々な反応

- 外モンゴル・・・独立へ
- 内モンゴル・・・独立モンゴル or 中華民国へ帰属
- 北京駐在王公・・・清朝擁護⇒独立モンゴル or 中華民国

「五族共和」とモンゴル

- ・モンゴル、チベットの分離を阻止する目的。
- ・漢・満・蒙・蔵・回（ウイグル）の五族が共和をなす。

革命派と立憲派

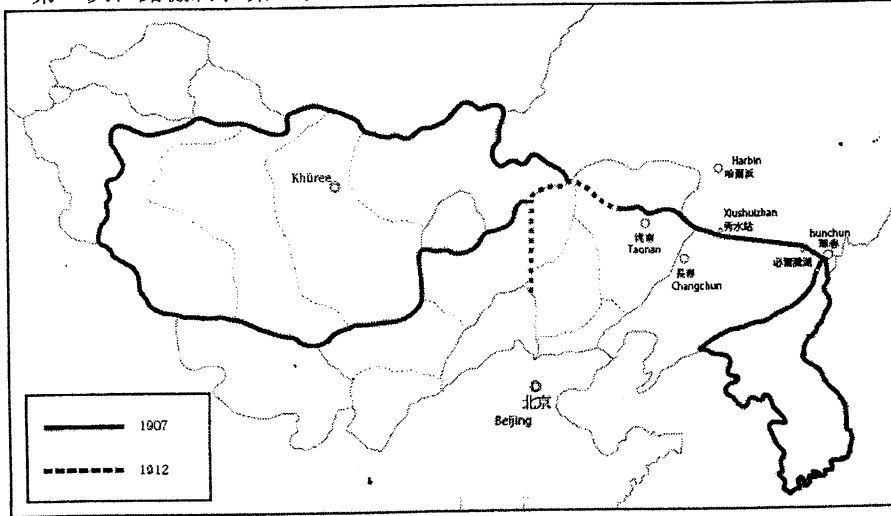
- | | |
|-------------------------------|-------------------------------------|
| 革命派＝「滅満興漢」
清朝を改革し、清朝を維持する。 | 立憲派＝「満漢不分」
清朝を打倒し、漢族主体の共和制を実現する。 |
|-------------------------------|-------------------------------------|

モンゴル人の五族共和理解

- ・「五族平等」はモンゴル人には魅力的でない。
- ・「モンゴル人と漢人の教え、宗教は異なり、言語は別々で通じず、一方は天に一方は地にあり、互いに交わることはない」。
- ・そもそも政体としての「共和制」の訳語がない。

モンゴルをめぐる国際関係

- ・日露戦争(1904-1905)後、日本とロシアは4度にわたり(秘密条約を含む)協約を締結(1907, 1910, 1912, 1916)。
- ・第一次日露協約、第三次日露協約により両国は満洲、モンゴルを「勢力圏」に分割。



The Russo-Japanese Treaties of 1907-1916 Concerning Manchuria and Mongolia

第一次日露協約(1907.7.30)

- ・日本は外モンゴルにおけるロシアの特殊権益を承認する。
- ・ロシアは朝鮮における日本の特殊権益を承認する。
- ・日露は満洲を南北に分割し、北満州をロシアの、南満州を日本の勢力圏とした。

第三次日露協約(1912.7.8)

- ・内モンゴル東西に分割し、西部内モンゴルをロシアの、東部内モンゴルを日本の勢力圏に。
- ・分界線は北京を通る経度(東経116度27分)。

露中関係

- ・モンゴル独立宣言後、ロシアはモンゴルと中国間の調停を提案。
- ・中国は清朝の継承政府との立場からモンゴル問題を内政問題とし、ロシアの提案を拒否。
- ・ロシアはモンゴルと法的関係を構築し、それを基礎として中国と交渉するよう方針を変換。

露蒙協定(1912年11月3日)

- ・ロシアは「モンゴル」の自治を保障する。

露中交渉

- ・露蒙協定締結を受けて、中国はロシアと交渉せざるを得ない状況に。
- ・ロシアは露蒙協定を基礎に露中間の合意形成を目指す。
- ・中国は露蒙協定を破棄した上で露中間の合意形成を目指す。
- ・中国はモンゴルに対する中国の主権と清代の政治体制への復帰を主張。
- ・ロシアはモンゴルに対する中国の宗主権とモンゴルの自治を主張。
- ・「協定を必要としているのはロシアではなく中国である」(サゾノフ)

露中宣言(1913年11月5日)

第一条 ロシアは外モンゴルに対する中国の宗主権 *сюзеренитет* を承認する。

第二条 中国は外モンゴルの自治 *автономия* を承認する。

交換公文

第一条 ロシアは外モンゴルが中国の領土の一部であることを承認する。

日中関係

- ・日本の大陸政策において、日清戦争後は「朝鮮問題」、日露戦争後は「満鮮問題」、辛亥革命後は「満蒙問題」が浮上。
- ・ロシアは露蒙協定（1912）により、外モンゴルにおける権益を確保。
- ・日本は対華二十一カ条の要求の第2号「南満州及び東部内蒙古について」で、当該地方での権益を要求。

キャフタ会議

- ・蒙中間に合意を形成し、モンゴルの地位を確定することを目的とした。

キャフタ協定

- 第一条：外モンゴルは露中宣言および交換公文を承認する。
- 第二条：外モンゴルは中国の宗主権を承認し、中国・ロシアは中国版図の一部である外モンゴルの自治権を承認する。
- 第六条：中国・ロシアは外モンゴルの自治内政に干渉しないことを約す。

自治撤廃とモンゴル革命

- ・1917年のロシア革命により、モンゴルは後盾を失う。
- ・外モンゴルの主権回復を図り、中国が自治を撤廃（1919）。
- ・モンゴル人の激しい抵抗を呼び、革命が発生（1921）。
- ・モンゴルはソ連の影響下に入る。

「公理」と「強権」

- ・中国において第一次世界大戦は「公理」が「強権」に勝利したと理解された。
- ・反植民地主義が拡大し、五四運動などが起こる。
- ・植民地主義に反抗しつつ、モンゴルの自治を強硬に撤廃する。
- ・「公理」は「強権」に転化し得る。

ソヴィエト・モンゴル友好協定と中ソ友好条約

- ・1921年、ソヴィエト・ロシアはモンゴル政府を唯一の正当な政府として承認。
- ・1924年、ソ連は外モンゴルに対する中国の主権を承認。

中ソ友好同盟条約（1945.8.14）

- ・中国政府は公民投票により外モンゴルが独立を希望するならばその独立を承認する。
- ・1946年1月5日、中華民国が独立を承認。

「中国」と「モンゴル」の歴史認識

華夷之辨と「モンゴル」

- ・中国史においては、モンゴルなどは「夷狄」として蔑視
- ・モンゴル史においては、「夷狄」＝モンゴル＞実際のモンゴル

「中国」から見た歴史 ≠ 広く共有された歴史
漢語史料から見た歴史 ≠ 実態を反映した史実

まとめ